

2020年4月12日 発行

東京フレンド

第508号

聖句

私たちは、四方から苦難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。

コリントⅡ4・8

新型コロナウイルス感染拡大…でも

私たちは礼拝を続けます

伊藤めぐみ

艱難 新型コロナウイルス感染が

拡大し、世界中が不安な中で過ごしています。大勢が集まると感染が広がるということで、まず大規模イベントの自粛が要請され、学校が休校になり、ついに7日には緊急事態宣言が発令されて、不要不急の外出や家族以外の人が集まることも自粛が求められています。

宗教団体も自主的に対応し、いくつもの教団や宗派、教会が礼拝を休んでいます。東京月会も3月の事務会において、この問題について話し合いました。そこで、私たちはいつも通り礼拝をすることを決めました。

礼拝を続けるにあたって、①なるべく接近して座らない。②昼食は購入したパンやおにぎりにする。③玄関に消毒薬を置く。④他団体には会堂を貸さない、などの対策

をとります。

通常通りに行う理由には、もとも出席者が多くないため、「密」にならないという残念な理由もあります。しかし、もっとも大きな理由は、この心が落ち着かない状況の中で、沈黙の礼拝が求められていることです。

「閉まっているかもしれないと思いがたから来た」と言って訪れる会友や訪問者のために、私たちは静かな沈黙の時、神と向き合う場を提供しなければなりません。そして私たちは会員一人ひとりも、ともに礼拝することで強められます。

とは言え、持病のある人や高齢の人、乳児のいる人は、礼拝に集うことが難しいでしょう。4月5日には一つの試みとして、若い会員からの提案で、礼拝時間にインターネットでそれぞれの自宅と会

堂をつなぎ、ともに礼拝しました。知恵を出し合い、工夫して、礼拝

感染拡大も心配ですし、それによる経済的な停滞も心配です。学校や会社も大きな決断を迫られているのではないかと思います。

こちらオンライン月会の礼拝に参加したので、簡単に報告させていただきます。

吉中美貴

ネットで礼拝しませんか

Zoom

でも、実際に会堂に行くことができないので、ネットというインターネットのテレビ電話のようなもので礼拝が行われました。初めて使った。若い人だけでなく、幅広い年代の方が参加されました。

沈黙の礼拝なので、

全員基本的にマイクは消音設定でしたが、感話をする時だけマイクをオンにして話すことができました。彼らにとっても、初めての試みだったらしく、礼拝後に一人ずつ挨拶がてら感想を話しました。

厳密には同じ空間を共有してい

を続けていきたいと思っています。

(東京月会代表書記)

るわけではないけれど、それぞれ離れた場所でも心細く過ごしていた中で、お互いの顔を見て静かな時を共に持つことができ、有意義だったとみんな言っていました。

東京でも家から出ることができない方と少しでも同じ静かな時を持つことができたらと思います。提案させていただきます。

(米国在住会員)

つないでみました

美貴さん、みなさん。オンライン礼拝をありがとうございます。場所は離れていても、礼拝を通してつながっているのを感じました。とても心穏やかな時間でした。

(今道環)

会堂にいらつしやる皆さんのお顔が見られて、とても心強かったですし、同じ時も持つことができましたと感じました。来週も開催したいと思います。

参加を希望する方は、東京月会までお問い合わせください。くれぐれもお体に気をつけて、一日も早く平穏な日々が来ることを祈ります。

(美貴)

さいたま市が市内すべての幼稚園などにマスクを配布しながら、朝鮮学校幼稚園を除きました。父母や市民の抗議で是正されたものの、これを知ってすぐに韓国の大田月会が行動を起こしました。

全世界を疫病が襲っている。いきなりやって来た疫病によって、すべての国、政府、関係機関も人々もみな同様に、このウイルスから逃れるために力を尽くしています。ワクチンが作られて、使われるようになるまでの相当な時間、注意しながら、限界がある防疫と治療を受けながら暮らすしかありません。いったん現れたウイルスは、私たちとともに生き続けます。どうしたらいいでしょう。一つの例から考えてみましょう。

さいたま市がマスクを配布するとき、朝鮮学校の幼稚園を除きました。このようなことは、どこにもあつてはならないことだという思いで、何人かのクエーカーが相談して、いくらかのお金を集め、縫製ができる人に協力をお願いして、マスクを100枚送ることにしました。

ここで驚くべきことに、事情を知ったマスクを縫製してくれた人は、自身も協力したいと、手間賃をほとんど受け取りませんでした。このような有意義なことにかかわることができたことを感謝し、このマスクを付けた子どもたちを想

コロナウイルスとともに

金照年 (韓国 大田月会)

像したとき、とてもうれしく、胸にいったいの愛と真心がわき上る経験だったと言います。たとえわずかなマスクでも、これをもらつて使う子どもたちと先生たちに、そして私たちの社会に温かい風が巻き起こるのは確かでしょう。

多くの国で旅行や集会を禁止し、国境を閉鎖する緊急命令が発動されました。さまざまな生産活動と経済活動が中断され、すべての国際交流が制限され、日常が沈滞するのは火を見るより明らかです。もちろん、一定期間はこうするしかないでしょう。

しかし、ウイルスの力が少し弱まれば、徐々に日常生活がもどってきます。もちろんそれまでは、かなりの犠牲は出るでしょう。そのような過程を経て、新型コロナウイルスは私たちの暮らしの一部分となつて、ともに生きていきます。しかし、予想を超えた範囲と深さで文明と暮らしの方向を変化させてみましょう。

それゆえ、再確認することがあります。少しの時間が過ぎれば、かなりの危険を抱え込んだまま、すべての国境は前のように開かれ、

経済活動ができるでしょう。現代の世界は目の詰まった網のように絡まり、国も民族も、宗教集団も理念集団も、それだけで生きていくことはできません。だからそれらを超越した共同対応が必要です。全世界を一つの生活共同体として、ともに研究し、開発し、貿易し、互いに助け合つて暮らしていくことです。

そのような面から、まず我が国の不法滞在者とよばれる人たちに、この状況の中でいかなる不利益も受けないように、国民と同じ恩恵を受けられるようにしなければなりません。

ユヴァル・ハラリ(イスラエルの歴史学者)が指摘したように、これからは生活様式が急激に変わっていくでしょう。今、緊急事態の中で起きていることが日常になるかもしれません。ある意味で、文明転換の分岐点になるでしょう。

ただ、重要なのは新型コロナウイルスを克服したら、これからはすべてのことを一つの世界で、つまり、国ごと、地域ごと、人も自分勝手にではなく、グローバルな次元で友



マスクと学用品



東京朝鮮第6 幼初級学校の園児

好的に共同で処理する方法を模索することです。すべての境を越えて、共同で対応して暮らす、ともに生きる社会に

(引用・金剛日報3月23日)

埼玉校はすでにマスクが足りているというので、大田区にある東京朝鮮第6 幼初級学校に届けました。突然の訪問にもかかわらず、校長先生はじめ先生方が喜んで迎えてくださり、預かり保育の園児も口々に朝鮮語で挨拶をしてくれました。お礼を伝えたいという校長先生と韓国の金さん李さん夫妻を電話でつなぎ、3人は立場を越えて言葉を交わしました。この温かい雰囲気の中で育つ子どもたちが、差別を受けることのない社会にしなければなら

ないと思いました。(めぐみ)

発行

キリスト友会東京月会
住所・東京都港区三田4-8-19
TEL・FAX・03・3451・7002
メール・mail@kristutyokukai.org